

伊丹福音ルーテル教会 主の降誕主日礼拝のしおり

2021年12月19日

主を待ち望むアドベント(点火) 讃美歌 21 242 番

1. 主を待ち望むアドベント、最初の蠟燭ともそう 主が道を備えられた このときを守ろう
※主の民よ、喜べ、主は近い
2. 主を待ち望むアドベント、第二の蠟燭ともそう 主がなされたその様に 互いに助けよう ※
3. 主を待ち望むアドベント、第三の蠟燭ともそう 主の恵み 照り輝き 暗闇を照らす ※
4. 主を待ち望むアドベント、最後の蠟燭ともそう 主はこの世に來たり給う 心込め歌おう ※

招きのことば：詩編 20 編 7-9 節

今、わたしは知った主は油注がれた方に勝利を授け 聖なる天から彼に答えて
右の御手による救いの力を示されることを。

戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが 我らは、我らの神、主の御名を唱える。
彼らは力を失って倒れるが 我らは力に満ちて立ち上がる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。あなたはあなたの独り子であるイエス・キリストを私たちを罪から救うためにお与えくださいました。今朝はイエス様が人となって生まれてくださったクリスマスをお祝いします。イエス様によって罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて今週も一週間を始めます。どうぞクリスマスをほんとうに喜ぶ信仰で私たちを満たしてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

クリスマス賛美 こども礼拝有志チーム

転入式

使徒書朗読：ヘブル人への手紙1章1-4節

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神はこの御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。御子は、天使たちより優れた者となられました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書1章1-14節

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。その光は、まことの光で、世に来てすべ

ての人を照らすのである。言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

讚美歌 106 番

1. 荒野(あらの)の果てに 夕日は落ちて たえなる調べ 天(あめ)より響く
※グロリア イン エクセルシス デオ グロリア イン エクセルシス デオ
2. 羊を守る 野辺(のべ)の牧人(まきびと) 天(あめ)なる歌を 喜び聞きぬ ※
3. 御歌(みうた)を聞きて 羊飼(ら)は 馬槽(まぶね)に伏(ふ)せる 御子(みこ)を拝(ほ)みぬ ※
4. 今日しも御子は 生まれ給(たま)いぬ 世界の民よ よろこび歌え ※ **アーメン**

説教：「神の子となる資格」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

ろうそくが4本ともりました。クリスマスを祝う礼拝の日が来ました。これまで、バプテスマのヨハネという人が救い主イエス様が来るということの人々に告げ知らせていました。口では救い主を待ち望むといいつつ、まごころからほんとうに待っているのか、と心に迫られました。また、悔い改めて自分からイエス様に目を向けて、悔い改めの実を結んでいるか、と問いかけられました。このようにイエス様を待つ心を教えていただきました。そして、今日はいよいよイエス様がこられた、という日です。

今朝読まれたヨハネによる福音書1章で、イエス様はどんなお方であるのか、三つのことが語られています。第一はイエス様は神様だということです。イエス様は永遠から永遠まで神様です。昨日も今日もいつまでも変わらないお方です。イエス様は父なる神様の独り子である御子なる方です。神様である栄光に富み、また恵みとまことに満ちたかたです。ヨハネによる福音書第一章第一節は、はじめに言があった、と始まります。言葉はイエス様のことです。イエス様は天地が作られたとき、神の言葉としてそこで創造のみわざに参与されていました。そしてすべてのものにいのちを与えたお方です。イエス様によらずに成ったものは何一つない、と書かれていますね。あなたや私も、この地球もこの宇宙も、イエス様という神の言によって成り立っています。イエス様が神様であることが第一のことです。

ヨハネによる福音書第1章で書かれている第二のことは、そのイエス様が2000年前に人となってくださったということです。14節に言は肉となって私たちの間に宿られた、とあります。神の御子イエス様が人となってくださったこと、この驚くべき事実、この歴史をわけた出来事がクリスマスです。神様が人となってくださったことをお祝いします。4節には言の命があった、命は人間を照らす光であった、と記されています。命の光であるイエス様が人となってくださったクリスマスを、私たちは今、お祝いしています。

18節では、いまだかつて神様を見た者は誰もいない、とあります。いったい神様はいるのだろうか、神様はどんな方なのだろうか、神様は私と関係のある方なのだろうか、と私たちは知ろうとします。けれども、自己中心で神様から離れている私たちには神様がわかりません。いまだかつて神様を見た者は誰もいません。

しかし18節には続きがあります。父なる神様のふところにいる独り子であるイエス様、人となって私たちの間に宿ってくださった御子イエス・キリストが私たちに神様を示されたと言ります。この方こそ、バプテスマのヨハネが荒野で声を張り上げて預言した、救い主イエス様です。イエス様は恵みと真理に満ちておられる方です。イエス様を知ることによって、私たちは神様がおられることだけではなく、神様が恵みと真理に満ちておられる方であることがわかります。また、16節にあるように私たちはみな、この方の満ち溢れる豊かさの中から、恵みの上に、さらに恵みを受けました。

神様は私とどんな関係があるのか、という基本的なことさえ自分の知恵や力をもってしてもわからない私たちですが、神様があなたに恵み深い方であること、神様は更に豊かな恵みをもってあなたを満ち溢れさせてくださる方であることがイエス様によって示されました。私たちは自分の罪のために神様から分断され断絶されていました。しかし神様は私たちを見捨てることなく、見放すことなく、神様のほうから私たちのところに来てくださいました。クリスマスにイエス様がお生まれになったことで、神様が私たちと同じ人となって私たちの間に宿ってくださいました。私たちに神様がどんなお方であるか、神様が私たちとどんな関係があるかを示してくださいました。あなたも私も神様に恵みを受けています。そしてさらに恵みを受けるのです。なんとすばらしいことでしょうか。この歴史的な喜びの知らせを緊急性をもって、そして全身全霊をもって人々に伝えたバプテスマのヨハネの気持ちがかかりますね。クリスマスの抑えきれない喜びを多くの皆さんに知っていただきたいですね。

さて、イエス様は恵みと真理とに満ちていたと記されていました。イエス様は私たちのところに来てくださいました。神様に背を向けて神様を認めず神様に干渉されないで生きていこうと構えている自己中心な私たちのところに来てくださってご自分をお示しになっています。イエス様はそのように恵みに満ちた方です。しかし同時に、イエス様は真理に満ちた方です。真理は偽りを許しません。神様と隣人への愛をもたず、自分がただしく神様と隣人を偽り者にする罪びとにはイエス様を受け止めることはできません。ヨハネによる福音書第1章の語る第三の

ことは、神様に逆らう罪びとの私たちが、神様の恵みを信じる神の子どもとされるということです。

光は闇の中で輝いている、しかし暗闇は光を理解しなかった。これは5節のみ言葉です。暗闇のような罪の中に住んでいる私たちのところに、命の光であるイエス様が来てくださったのに、私たちは罪のゆえにイエス様のことが理解できません。9節には、そのまことの光は世に来てすべての人を照らした、と記されています。世をおつくりになった神の言であるイエス様が、ご自分の民のところに來られたのだけれど、民はイエス様を認めず、イエス様を受け入れなかった、と続きます。それはイエス様が恵みによって民のところに來てくださったのですが、イエス様の真理を受け入れることができなかったということです。真理であるイエス様に会うとき、真理によって歩いていない自己中心な人は、自分を守るために真理であるイエス様を理解できず、認めず、受け入れないのです。

ヨハネによる福音書の残りの部分で、イエス様がご自分の民である人々から受け入れられないで、十字架にかけられて命をお与えになったかが詳しく述べられています。人々は自分を守るためにイエス様を捕らえ、イエス様の命を差し出して犠牲にしました。人の心は、自分を守るためには神の御子さえ死に渡すそら恐ろしくも醜いものです。

私たちも同じ罪びとの性質を持って生まれています。イエス様が来てくださるということは喜びのはずなのに、心を開いて、うちにお招きして、全面的に喜ぶというより、イエス様に対する後ろめたさや、申し訳なさを感じたり、うれしいのですが少しお待ちください、と心の身だしなみが整っていないことを恥ずかしく思ったり、もう帰ってください、と門前払いをする姿なのです。神様から離れ、神様に背を向けて、自分を守って生きてきた自己中心さを、真理の光、命の光であるまぶしいイエス様の前に出ることができない。真理によってすべて見通されている。もう少しよい人になってからでないと会えない。いや自分はイエス様を受け入れることはできない。もうそれでいい。私たちにも、イエス様を理解せず、認めず、受け入れない心があります。そしてそれすらイエス様はご存じなのです。

イエス様は恵みと真理に満ちておられるイエス様が、恵みによって私たちのところに來てくださいます。そして真理であるご自分をお示しになります。罪深い私たちにはまぶしくて、イエス様を遠ざけようとしています。けれどもイエス様は私たちに恵みの上に、さらに恵みを受けました。神様を遠ざけようとする私たちの罪のために、イエス様は十字架にかけられて死んでくださいました。神様はそのイエス様の命の犠牲によって、正しく私たちの罪を赦してくださいます。そして私たちの内に神の子どもとしての新しい命を始めてくださいます。イエス様をふるいのけたいと思うその罪の極みまで、イエス様はその身に引き受けてくださって、どうしようもない私たちの自己中心のすべてを担って十字架で死んでくださいました。恵みの上に、さらに恵みを与えてくださいました。そして、そこまでして私たちの罪を赦して、私たちに神様の

子どもとしての新しい命をお与えくださる救い主イエス様を受け入れ、信じる信仰をあなたに与えてくださるのです。

それはすでに自分の欲による命ではありません。また、家族の信仰として血筋だからというだけで信じる信仰でもありません。信仰の家族に祈られて神様を信じることができたのはすばらしい恵みですが、その信仰は家族からもらったのではなくて神様によって生まれた命です。イエス様を信じている親は神様の子どもですが、その親の子どももまた、神様の子どもです。神様は神様の孫をつくりません。言であり命であるイエス様があなたを照らしあなたの内にイエス様を信じる信仰を作ってくださいます。神様の子どもとして生まれます。

今年のクリスマスも、あらたに喜びを味わうクリスマスです。天地をおつくりになった御子イエス様が人となって私たちの間に宿ってくださった恵みに満ちたクリスマス。お生まれになったイエス様が、その事実を受け入れない罪びとの罪のために十字架で死んで、ただしく罪を赦してくださる真理に満ちたクリスマス。このイエス様によって、あなたの罪を赦し、神の子どもとしてくださる、恵みの上に恵みを受けるクリスマス。クリスマスおめでとうございます。

クリスマスの本当の喜びは、神様の喜びです。神様が実にその独り子イエス様を私たちにプレゼントしてくださいました。それほどに世を愛してくださいました。そしてイエス様を信じるものはひとりも滅びることなく、罪赦された神様の子どもとして永遠のいのちに生きるのです。このイエス様のお誕生の喜びをもってこの一週も与えられたところで精いっぱい生きていきましょう。また、今週お出合いなる皆さんと、喜びを分かち合っていこうではありませんか。もちろん分かち合うすべての人が同じ心でイエス様を迎えることはないでしょう。しかし、イエス様はそのことをご存じで、その方々のために命をお与えくださったのでしたね。神様が、私たちの大切な方々にもイエス様を信じる信仰をお与えくださるように、ともに祈りましょう。

「しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。」
ヨハネ 1:12

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 112 番 献金 献金感謝の祈り

1. 諸人(もろびと)こぞりて 迎えまつれ 久しく待ちにし
※主は来ませり 主は来ませり 主は、主は来ませり
2. 悪魔のひとやを 打ち砕きて 捕虜(とりこ)を放つと ※
3. この世の闇路を 照らしたもう 妙(たえ)なる光の ※
4. しぼめる心の 花を咲かせ 恵みの露おく ※

5. 平和の君なる 御子を迎え 救いの主とぞ ほめたたえよ ほめたたえよ ほめ、ほめたたえよ
アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ み栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しく とこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏